

**都市計画税**

例えば、現在の都市計画税率0.3%を0.2%に引き下げたと仮定して、土地・家屋の評価額が2千万円の場合  
**年間2万円の税金が軽減**されます。  
 ※詳しくは3ページをご覧ください。

**都市計画税引き下げを提案します！**

10月からは消費税率が10%に引き上げられ、市民生活や景気への悪影響が心配されます。そういった中、チームみらいは、家計への負担が少しでも軽くなり、より豊かに暮らせるような政策も積極的に提案していくことを考えています。  
 そのひとつに、各務原市は市街化区域の土地・家屋にかかる都市計画税が平成29年度から、収入が活用額を上回り、剰余金が出るようになったことから、

**新庁舎建設に匿名の談合情報**  
 7月8日、各務原市役所に、匿名の投書で「新庁舎建設工事」について、談合情報が寄せられました。  
 その投書には、「入札については落札業者がすでに決まっております、入札は見せかけである。」と企業体の業者4社の名前が書かれていました。  
 そこで市は、審査委員会を開いて、調査に値すると判断し、入札参加業者を呼び、事情聴取した結果、「談合の事実があったと認められなかった」と決定し、予定通りに入札を行いました。  
 入札結果は、予定価格を公表していないにも関わらず、66億5500万円、落札率99.68%と高落札率で、匿名情報と同じ業者に決まり、市と仮契約を結びました。  
 新庁舎建設工事の入札については一旦保留、もしくは再入札を検討するべきと訴えましたが、賛成多数で議会承認されました。

**みらい通信**  
 各務原市議会 市民派・チームみらい

**◆市政カフェのご案内◆**  
 お茶を飲みながら各務原市のことをいろいろお話しませんか。  
 お気軽に参加してください。  
 (予約は要りません)

	会場	日時
①	鶉沼福祉センター 学習室	11月16日 (土) 10時～
②	中央ライフ デザインセンター 第2研修室	11月17日 (日) 14時～

市民派・チームみらいを応援してね！  
 市議会議員の候補者を募集してます。

**市役所の地下食堂**  
 市役所の地下食堂は誰でも利用でき、私たちも利用しています。定食は、430円とお値打ちで、美味いんです。喫茶コーナーもあり、交流の場となっています。新庁舎建設工事が始まり、地下食堂も3年後にはなくなると思うと残念で淋しい気がしますね。

人気の定食

第10号  
 2019年  
 10月発行  
**杉山元則**  
**古川明美**  
 事務所：  
 蘇原六軒町 2-9  
 電話 383-2900  
 FAX 260-8233  
 発行経費の  
 1/4 政務活動  
 費を使用

**浅野市長の答弁回数が激減した理由！**

平成 25 年の浅野市長就任当初は一議会で20回ほど答弁をしていましたが、平成30年には一議会で2回しか答弁をしない時があるほど答弁数が激減しました。その理由を一般質問しました。

**【浅野市長の答弁】**

私が市長に就任した当初は、私の人となりや考え方、市政への思いなどを、あるいは市長交代後の市政の方向性や政策などを、答弁を通して、議員の皆様やより多くの市民の方々に、速やかにお伝えするため、できる限り多くのご質問に私自身が答弁いたしました。

2期目である現在は、まちづくりミーティングや各種団体との会議、懇談会などにおける継続的な「対話」の積み重ねにより、私の市政への思いなどが、市民の皆様十分に知られていると考え、質問の内容に応じて、最も適切であると判断された答弁者を決定しています。

私が答弁する明確な基準は特に設けておりませんが、議員の皆様からいただく質問にご答弁申し上げる姿勢として、一番大切なことは、「誰が答弁するか」とか「何回答弁するか」ではなく、「ご質問を真摯に受け止め、正確な事実に基づき、実直に、そして丁寧にお答えすること」であると考えます。

私が市長に就任して6年以上の月日がたちますが、この間、様々な施策や課題を通して、副市長や部長をはじめ職員と綿密に議論を交わし、意思疎通を図ってまいりましたので、私自身の考えや市政の方向性などは、職員に深く浸透しております。

したがって、議員の皆様からいただく質問に担当部長などが答弁する場合も、執行部としての考えを述べており、市として説明責任を果たしていると考えます。

**浅野市長の議会ごとの答弁回数推移**  
 (平成25年6月～平成31年3月)

市長の答弁の中で、1期目はできるだけだけ答弁をしていたが、2期目に入った今は自分の思いが市民に十分に知られたと考えると言っていますが、それが答弁を減らす理由になるのでしょうか。また「誰が答弁するかは重要ではない」という事ですが、政策の最終判断を下した市長自身が答弁する言葉の重みは、職員が答弁するのは明らかに違います。  
 左のグラフを見れば一目瞭然で、発言回数が激減しており、他の市長と比べても明らかに答弁が少なくなります。議員の質問にはできる限り市長自身が丁寧に答弁するのが市長のあるべき姿だと思います。(杉山)

**1年間の答弁回数比較(平成30年6月～平成31年3月)**  
 柴橋(岐阜市長) 76回、古川(多治見市長) 342回  
 尾関(関市長) 48回、浅野(各務原市長) 9回